

# 年少児保育案

はな組 男児10名 女児9名 計19名  
保育者 内田 真紀 村田 倫代

## 1 幼児の実態

子どもたちは、保育者だけでなく、好きな友だちを誘って、遊びを楽しむ姿が見られるようになってきた。遊ぶ中で、楽しい気持ちや「○○しよう」など自分なりの言葉で友だちに伝えながら遊んでいる。一方で、友だちとのかかわりが増えた分、自分の思いを通そうとして、気持ちがぶつかり合うこともある。自分の思いを自分なりの言葉で友だちに伝えようとする姿を認めながら、相手の話も聞くことができるように、保育者が友だちの気持ちを伝えたり、一緒に聞いたりしている。また、身の回りの始末や生活に必要なことなど、自分でしようとする姿も多く見られるようになってきた。

園庭では、砂場やままごとハウスなどで友だちと一緒にごちそうをつくって遊んでいる。自分たちでバケツや皿、型抜きなど必要な道具を持ってきて、一緒につくったり、自分のつくったものを見せ合ったりして楽しんでいる。遊ぶ中で、「仲間に入れて」や「それ、貸して」「先生、○○ができたよ。食べて」など自分の思いを伝える姿も見られる。ぶらんこや鉄棒など固定遊具で遊んだり、園庭を駆け回って遊んだり、保育者と一緒にかくれんぼをしたりして、寒い日でも、体を動かして遊ぶ楽しさも味わっている。

室内では、空き箱やロールペーパー芯などを組み合わせて自分のつくりたいものをつくって楽しんでいる。はさみやセロハンテープなどの使い方にも慣れ、自分のつくったものを保育者に見せて、使い方や上手にできたところなどをうれしそうに話している。また、友だちと一緒にままごとを楽しみ、自分のイメージする役になりきって遊ぶ楽しさを味わっている。遊びながら「私は○○ね」と役を決めたり、遊びに必要な場所や道具を用意したりして遊んでいる。

このように子どもたちは、様々な活動や場に興味を広げ、自分のしたい遊びを楽しむとともに、友だちや保育者とのかかわりながら遊ぶことを楽しんでいる。

## 2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友だちとかわって遊ぶ楽しさを味わいながら、自分の思いが相手に伝わるうれしさや、時には、自分の思いを通そうとして気持ちがぶつかり合ったりする経験を重ね、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりすることの大切さを感じ始めている。

そこで、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、道具や場を一緒に使いながら遊ぶ姿を大切にしたい。

砂や水を使った遊びでは、砂に水を加えることで、サラサラだった感触がドロドロやトロトロに変わる楽しさを味わうことができる。子どもたちが自分の感じたことを話す姿を共感的に受け止めていきたい。また、洗面器や型抜き、スコップなど様々な道具を使って遊ぶ中で、「仲間に入れて」や「貸して」、「今使っているからだめ」などの言葉が必要になってくる。今までの経験から、自分から進んで必要な言葉を使い、友だちから貸してもらってうれしい気持ちや、順番を待つ大切さを感じることができるようになりたい。

製作遊びは、自分のイメージするものを様々な材料を使って、つくる楽しさを味わうことができる遊びである。保育者に自分のつくったものを見せ、つくり方や使い方を話す姿を見守りながら、その喜びに共感していきたい。そして、友だちと一緒に遊ぶことで、自分のつくったものを見せ合ったり、友だちの工夫に気づき、真似ようとしたりする遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、好きな友だちを誘ってじっくりと遊びながら、自分の思いを自分なりの表現で友だちや先生に話そうとしたり、聞こうとしたりする姿につながっていくものであると考える。

### 3 この期の保育について

#### (1) ねらい

- 友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しむ。
- 身近な冬の自然に触れて楽しく遊ぶ。

#### (2) 内容

- 好きな友だちを誘って遊ぶ。
- 自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 寒さに負けず戸外で元気に遊ぶ。
- 霜柱や氷など冬の自然に触れる。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする気持ちをもって取り組む。
- 冬の健康な生活の仕方を知る。

### 4 本日の保育について

#### (1) ねらい

- 好きな友だちを誘って、一緒に遊ぶ。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする。

#### (2) 内容

- 好きな遊びが同じ友だちを誘って、楽しく遊ぶ。
- 一緒に遊びながら、自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えようとしたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 園庭で遊びながら、日なたの暖かさや吐く息の白さなど、冬ならではの自然に触れる。
- 自分から進んで片付けや手洗い・うがい、衣服の着脱をしようとする。

#### (3) 保育に当たって

##### ア 人とかかわり

- 友だちを誘い、かかわって遊ぶ姿を見守ったり、保育者も仲間に入ったりして遊びを楽しむ。友だちとかかわる中で、楽しい気持ちや「貸して」などの必要な言葉を自分なりに伝えようとする姿を見守り、時には言葉を補ったり、会話をつなげたりしていく。
- 自分の思いを通そうとして気持ちがぶつかる場面では、両者の話を聞き、自分の思いを相手に伝えようとする姿を見守りたい。そして、友だちの話を聞きながら、相手の思いにも気付いていくことができるように言葉を掛けていく。
- 降園時の活動では、ゲームをしたり、歌を歌ったり、絵本を見たりしてみんなで集まる楽しさを味わいたい。
- 衣服の調節や手洗い・うがいなど、冬の健康な生活の仕方を知らせ、自分で進んで行おうとする姿を見守り、必要に応じて言葉を掛けたり、手伝ったりする。

##### イ ものとかかわり

- 一人一人が自分のイメージするものをつくったり、友だちと一緒につくって遊ぶ楽しさを味わったりできるように、必要な道具や用具を十分に用意しておく。
- 園庭の様々な固定遊具に積極的にかかわり、友だちを真似て自分もやってみようとする姿を見守り、保育者も一緒にしたり、必要に応じて手伝ったりして、「できた」という満足感を味わえるようにする。

##### ウ 自然とかかわり

- 風や水の冷たさ、吐く息の白さなど、冬ならではの自然に触れる機会を大切にし、その不思議さについても話題にしていきたい。寒さの中でも、日なたの暖かさや体を動かすと体が温まってくることなどを一緒に感じながら、気付くことができるような言葉掛けをする。
- 二十日大根やクロッカスの様子を見たり、水をあげたりして成長の変化に気付き、共に喜ぶようにする。